



園芸用培土メーカー van der Knaap社

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

ココピート世界トップシェアで高品質な製品を提供しているのは1980年創業のオランダvan der Knaap社である。グループ年商3500万ユーロ。世界30カ国に年間1500haのココバッグをハイテク農業国中心に販売している。

製造・加工はスリランカ、インドなど7拠点。商品開発やアフターサービスはオランダから行なっている（日本では2010年からイシダロ農材(株)が取り扱いを開始）。

同社の園芸用ココバッグは主に4種類あり、養液栽培用バッグへの定植穴、排液穴の切り込み箇所やEC値（塩類濃度）も作物別や顧客の要望に合わせて行なっている。

同社に隣接する自社試験場では各種実験が行なわれていた。ココバッグを使用して安価に施設園芸を始める場合におけるシンプルかん水システムの有効性、品種別に合う組成やかん水方法などの実験である。

現在、オランダなどでは土壌で栽培した場合のみ有機栽培とみなされている。これを米国のように有機由来の培地を使用すれば有機栽培とみなされるよう規制の変更をメーカーや生産者と働きかけている。将来に備えて有機由来のココバッグと有機由来の液肥や天敵昆虫を使用した栽培実験も行なっている。

van der Knaap社園芸用ココバッグの主な種類

Profit :

粒が粗く、空気含量が30%と高いため、水分含量をコントロールしやすい。乾燥ぎみに管理でき、ストレスをかけて生殖生長を促進できる。粗い培地は水分量、pHやEC値の急速な変化に対応できるが高度技術が必要。

Basic+ :

細かい粒を中心とする材料で形成されており、空気含量は22%程度で、水分含量を維持しやすいため湿気ぎみに管理できる。日本で最も多く使用されている。

Euro+ :

空気含量24%でProfitと粒からなる上記2種の間製品。

Maximum :

ガーベラ栽培用の最も粗い製品。



右Basic+、左Maximum。粗さの違いがわかる

このように実験と結果に基づいた科学的アプローチによって開発された有機由来の培土は今後の園芸とマーケットニーズを考慮するうえで重要なポイントになるだろう。



ココバッグを使用した有機栽培の実験



シンプルかん水システムの実験